



今日のキーワード 『調剤薬局』の再編が加速

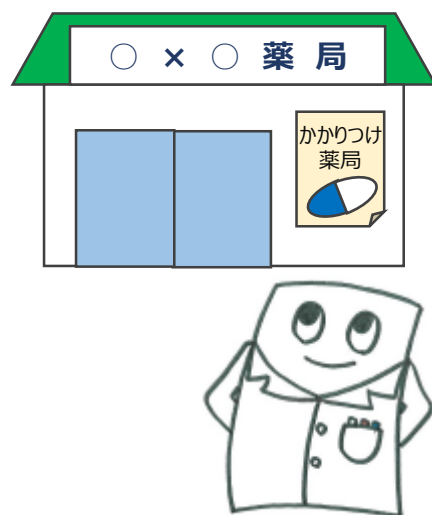
『調剤薬局』は調剤を病院から切り離す医薬分業により誕生しました。『調剤薬局』は調剤での高い利益を原資にした新規出店により成長が続きましました。またドラッグストアが大手への集約が進んだのに対して、『調剤薬局』は個人経営中心の状況にあります。ただ、ここに来て出店余地の縮小や深刻な薬剤師不足などを背景に調剤大手に加えドラッグストア大手による中小チェーンの買収など再編が加速しています。

ポイント1 『調剤薬局』は「かかりつけ薬局」への移行など転換期に

- 病院前などに立地する『調剤薬局』はコンビニエンスストアを上回る約6万店まで増加しました。このうち約7割が個人経営とされ、大手への集約が進むコンビニエンスストアやドラッグストアとは対照的な状況にあります。
- 順調に拡大してきた『調剤薬局』ですが、都市部での出店余地の縮小や薬剤師不足が深刻化しています。また厚生労働省は医療費の削減を目指し、2025年までに全ての『調剤薬局』に患者の薬歴を管理し、健康の相談窓口になる「かかりつけ薬局」への移行を促しており、『調剤薬局』は転換期にあります。

ポイント2 『調剤薬局』の合併・買収（M&A）が活発化

- こうした状況を受けて『調剤薬局』大手による中小薬局のM&Aが活発になっています。2019年11月に『調剤薬局』大手の日本調剤は「プラザ薬局」などを運営する中堅3社を買収すると発表しました。3社は、首都圏で計19店舗を展開しており、同社は買収で首都圏を強化します。
- 国内の調剤医療市場は約8兆円、このうちドラッグストアは約10%にとどまるとみられ、大手ドラッグストアが調剤を拡充する動きも増えています。なかでもスギHDは『調剤薬局』の「かかりつけ薬局」への移行を好機とみて、調剤やヘルスケアを強みとする他社とのM&Aを積極化する方針です。



今後の展開 『調剤薬局』の淘汰・再編が加速

- 主に調剤薬局が医師が処方する「医療用医薬品」、ドラッグストアは消費者が直接購入できる「一般用医薬品」とすみ分けが成立していました。ただ、競争が激化し、ドラッグストアは今後の成長を集約の遅れる調剤に求め、大手調剤薬局とドラッグストアがともに個店や中小チェーンの買収に乗り出す状況となっています。『調剤薬局』では、立地やサービスだけでなく、スケールメリットで商品の調達や人材確保面での競争力にまさる大手への淘汰・再編が加速するとみられます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック!

2020年1月29日 新しい『がん検査サービス』の実用化の動きが加速

2020年1月17日 注目される『アルツハイマー治療薬』の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。